

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス すてっぷ			
○保護者評価実施期間	令和6年3月1日		～	令和6年3月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12人	(回答者数)	12人
○従業者評価実施期間	令和6年3月1日		～	令和6年3月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月1日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	作業療法士や保育士の専門職が、利用児の特性を観察、評価し、それぞれの特性にあった支援計画をたて、目標達成に向けた支援が実施できている。	・日々の支援の中で、特性を観察、評価し設定した目標を職員間で共有している。保護者や本人のニーズを尊重し、支援計画の目標を設定している。	特性の評価、設定した目標を職員間で共有することで、統一した支援を行うことで、支援の質の向上を目指していく。
2	広い支援スペースを使って、サーキット運動など体を使ったプログラムを実施している。 またコミュニケーション面では、利用児それぞれの適切な距離感を尊重した支援ができています。	・感覚統合を理論に基づく運動プログラムの実施。 ・パニック時のセーフティゾーンの確保。 ・利用児同士の適切な距離、関わり方を身につけるための支援の実施。	・運動プログラム内容をより充実し、保護者にもそれらの内容や効果を伝達していく。 ・それぞれのコミュニケーション方法の特性を把握し、パニック時の対応や、遊びの中での関わりを充実していく。
3	・安全な送迎の実施 ・保護者のニーズに合わせた送迎の実施ができています。 ・利用連絡帳や送迎時に保護者に利用中や活動の様子を伝達し、保護者とのコミュニケーションを図っている。	・保護者の利用のニーズを確認しながら送迎など支援ができています。	学校から事業所、自宅まで安定した気持ちで帰れるよう、利用中や送迎中の支援も充実していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者同士の交流の機会が少ない。 ・きょうだい児同士の交流など支援がない。	利用中に保護者の就労があり、保護者の参加できる支援プログラムを実施することができなかった。	夏休みなどの長期休みに、参観日を設け普段の療育や事業所での様子を見学して頂く機会をもつ。
2			
3			